

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	24	学 校 名	伊豆の国特別支援学校 伊豆松崎分校	校 長 名	松本 仁美
------	----	-------	----------------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心 ①	生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成	経営計画に基づき、生徒の人権が守られ、生徒の良さが生かされていると答える教職員や保護者（AB100%）	アンケートより 教職員 AB100% 保護者 AB94%	A	○帰りの打ち合わせでの生徒のあらわれの共有や、月1回のいじめアンケートを行うことにより生徒の気持ちに寄り添い丁寧な対応ができています。 ○生徒会による目標の提起で「さん」付けの徹底が図られた。
		不祥事根絶に向けて自身の行動を振り返ることができた教職員（AB100%）お互いを認め合う「自己指導能力」が高まった生徒（AB80%）	アンケートより 教職員 AB100% 認め合い協力できた生徒 AB100%	A	○不祥事根絶研修を行い行動を振り返ったり、対話する中で思いを話しあったりして風通しのよい環境が整った。 ○教職員が生徒の良さを認めることで、生徒どうし認め合う様子が見られるようになった。 ●生徒同士協力しあう様子は多くみられたが、自己指導能力の高まりまではいかなかった。
安全・安心 ②	命のつながりを実感する食育や健康な体づくりの推進	家庭と連携し生徒の健康や健康な体づくりに取り組んだ教職員及び保護者（AB80%）	アンケートより 教職員 AB100% 保護者 AB100%	A	○長期休業期間中は運動面の取組目標を生徒が立て、家庭でも取り組むことができた。 ○生徒の健康状態等について、必要に応じてノートや電話で家庭と共有し迅速に対応できた。 ○朝体育では、どの学年も体力の向上が見られている。
		食と各教科等の関連を意識した指導をした教員（AB100%）	アンケートより 教員 AB100%	A	○事前学習で栄養素や食事について学習する機会を設けることで、食の大切さを意識して指導ができた。 ●各教科等に関連付けることは難しかった。全体計画に盛り込む等意識付けが必要である。
安全・安心	生徒の命を守る 安全教育の充実	緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして生徒の安全を守る行動を身につけた教職員	アンケートより	A	○防災や防犯に関する研修等を通して、自分たちがどのように動くのか、どのような行動が必要かを考え行動すること

様式第3号

心 ③		(AB100%) 防災、防犯の備えが 身についた生徒 (80%)	教職員 AB100% 生徒 AB100%		ができた。 ○災害の種類によってどこへ避難するか身についた。抜き打ちの訓練でも、生徒が落ち着いて行動できていた。 ●防犯面に関しては環境を整える必要があり不安もある。
専門性 ①	体的・協働的・深い学びによって 資質・能力を育成 する授業実践	生徒の実態や思考 の流れに沿った授 業づくりを行った 教員 (AB90%)	アンケートより 教員 AB91.7%	B	○研修をとおして生徒の実態把握や授業づくりについて学年間や学部間で十分に話し合いを行い、改善しながら授業を行うことができた。 ●研修窓口の「職業」以外の教科では思考の流れに沿った授業展開ができなかった。
		教科別シートの記 録により、障害特性 に応じた目標設定 や支援ができた教 員 (AB90%)	アンケートより 教員 AB100%	A	○教科別シートを利用し教員間で目標や支援について共有することができた。 ●さらに見やすく使いやすいものがあるとよい。
専門性 ②	特別支援教育の 専門性の向上	障害に応じた支援 についての考え方を 深め実践に生かす ことができた教員 (AB100%)	アンケートより 教員 AB100%	A	○その都度情報を共有できたことで実践に生かすことができた。 ○自校、他校の研修会に参加することで考えを深めるきっかけになった。 ●さらに研修の機会が広がるとよい。
		ICT 活用により、主 体的に授業に取り 組んだ生徒、また、 授業づくりや業務 効率化に効果を感じ た教員 (AB80%)	アンケートより 教員 AB100% 生徒 AB100%	B	○授業に ICT を活用することで生徒が主体的に学ぼうとする様子が多く見られた。 ○活用方法を共有することで取り組みやすくなった。 ●業務効率化の効果を感じるまでに時間がかかる。
連携 ①	キャリア教育の 視点で生徒の願 いや夢を大切に した進路指導の 充実	定期的な面談を実施し保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導できた教員 (AB100%)	アンケートより 教員 AB100% 保護者 AB100%	A	○回数や時期も適切に設定されており、目標の共有を行い指導につなげることができた。
		生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)	アンケートより 教員 AB91.7% 保護者 AB94%	B	○1年生保護者向け進路説明会を実施し情報提供ができた。 ●進路先を考える中で生徒保護者と教員の思いに差異が生じた場合の進路指導や情報提供が難しかった。

様式第3号

連携②	保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり	適切な交流を計画し地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)	アンケートより 教職員 100%	A	○桜葉や桑葉の活動は農福連携ができた。 ○地域に出て作業学習を行うことで様々な場面で協働し地域に貢献した。
		地域や松崎高校との交流会を活用した学習活動をとおり、意欲的に学んだと感じる生徒、教員及び保護者 (AB80%)	アンケートより 教職員 91.7% 保護者 100% 生徒 100%	A	○防災や体育祭など行事が中心ではあるが、生徒は意欲的に参加し楽しんだ。 ●交流の回数が少なく単発で終わってしまう。積み重ねたい。
チーム学校①	特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化	センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期)	教職員、外部 アンケートより 教職員 100%	A	○依頼される回数が増えた。確実に周知されてきていると感じる。 ●回数や内容を簡潔に整理し校内で周知するが、内容や支援方法を職員で研修する機会が設定できなかった。
		学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証 (毎学期)	アンケートより 教職員 100%	A	○生徒について必要な関係先と連携しケース会議を開催した。役割や情報の共有、支援について話し合いができた。
チーム学校②	教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進	キャリアステージと自己目標シートに基づき、自身の役割を理解して経営に携わった教職員 (AB80%)	アンケートより 教職員 100%	A	○自己目標を設定し確認することで自分の役割を考え理解することができた。
		計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員 (AB70%)	アンケートより 教職員 100%	B	○働き方を見直すことで、概ね時間内に仕事を終え帰宅できている。 ●一人の抱える仕事量が多いため、業務の平準を検討する。